

中藺孝志先生が生体触媒研究部門の特任講師として着任！！

2021年11月1日付で、中藺孝志先生が立教大学から、大阪市大の人工光合成研究センター、生体触媒研究部門(天尾研究室)の特任講師として着任されました。そこで、皆さんに中藺先生を少しでも知っていただくために、これまでの研究と今後の抱負についてインタビューしました。



中藺孝志先生

田村) これまでの研究について教えてください。
 中藺先生) これまで私は遷移金属錯体触媒を用いた水の可視光分解反応の達成を目指し、均一溶液中での光酸素発生反応の研究に取り組んでまいりました。触媒には、コバルトや銅などの卑金属錯体を用いてきました。卑金属錯体は、置換活性であり耐久性が低く、また貴金属錯体と比較して高原子価状態をとりづらいために触媒活性が低いことが課題でした。そこで私は、酸化還元活性な大環状配位子であるポルフィリンや、二重N-混乱ヘキサフィリンを配位子に用いることで、その課題を克服すべく研究してまいりました。

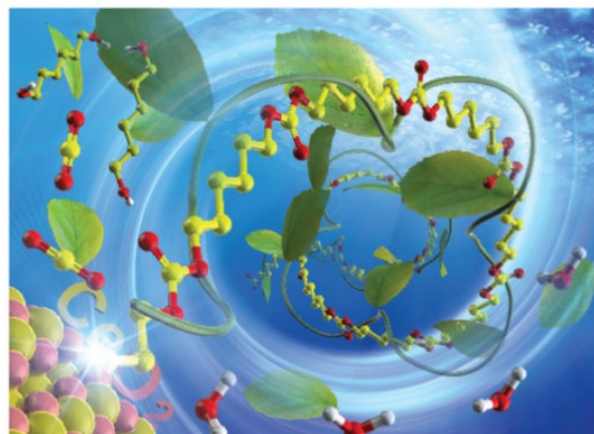
田村) 今後の抱負について教えてください。
 中藺先生) 人工光合成研究センターの一員に加えていただけて大変うれしく感じております。着任後は、これまで研究してきた金属錯体のさらなる研究発展や応用の可能性の探求に尽力していきたいと考えております。さらに、当センターで研究に従事されている様々な分野の研究者の方々と協力しながら、生物や無機固体等との融合によって、ここでしかできない研究成果の達成を目標に取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

研究は主に、副センター長の山田先生の研究室

と協力して進めていかれる予定です。中藺先生は錯体化学と合成化学に精通しており、斬新な発想と活発な研究力で、人工光合成センターに寄与できる素晴らしい成果が出てくることを期待しております。また、センターの先生方との異分野コラボレーションを通して、良いシナジーが生まれることも期待しております。

二酸化炭素とジオールからのポリカーボネートジオール直接合成に成功

田村研究室の谷雨先生が行っていた二酸化炭素とジオールからのポリカーボネートジオール合成が Green Chemistry (Green Chem. 23 (2021) 5786-5796)誌に掲載され、プレスリリースも行いました。酸化セリウム触媒と二酸化炭素流通反応システムを使うことで、高効率にポリカーボネートジオールが合成されます。Green Chemistry 誌の Inside back cover にも選出されました。



(今月の担当は田村正純准教授でした)

人工光合成研究拠点

ニュースレター

第6巻・第8号

2021年11月16日発行

発行責任者：天尾豊

(人工光合成研究センター所長)
 編集責任者：吉田朋子(同副所長)

拠点 HP は [こちら](#)

